第３学年ＥＳＤ(総合的な学習の時間）学習指導案

日時　平成２９年９月２２日（金）５校時
場所：３学年教室　授業者：Ｔ１鹿又　　悟
Ｔ２佐藤　陽子
ＧＴ矢吹真由美

１　単元名　「地域のよさを見つけようⅠ」～ディスカバリー大豆～

２　児童の実態

本学級の児童は、素直で活発であり、興味・関心をもったことに熱心に取り組む。自分の考えや思いを意欲的に発表することができる一方で、自分の考えを話せたことに満足してしまい、友達の考えを自分の考えと比べながら聞くことができない児童が多い。このようなことから、友達の考えと比較しながら聞くことができるよう取り組んでいるところである。また、給食時間を見てみると、学級の食べ残しはほとんどないが、食材をよく見て大豆の加工品を意識しながら食べている児童はほとんどいない。そこで、本単元の学習を通して、大豆が自分たちの食生活に欠かせないものであることを意識し、大豆を意識して食べたり、周りの人に大豆について話したり、苦手でも食べようとしたりする態度を養いたい。

３　ＥＳＤの視点に立った学習指導について

（１）教材について

総合的な学習の時間に初めて取り組む第３学年では、児童にとって身近な学校や地域を活動の場としている。子どもたちは、２年生の生活科で地域での体験的な活動をしてきており、３年生の社会科では学校の周りの様子や須賀川市についてまとめる学習をしてきた。このように学習における地域とのかかわりは大きく、地域のよさに触れる活動は意義深いと考える。また、児童が関心のある給食からアプローチすることで、意欲的に調べたいという探求心を身に付けさせたいと思っている。

本単元は、総合的な学習の時間の目標の構成の（２）「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や資質を育成する」に属する学習である。対象となる事象への体験活動を大切にするとともに、それらを通してまた新たな課題を見つけ、さらなる問題の解決を始めることができるようにする必要がある。この学習は、３年生社会科の「市の様子」、「昔の道具を伝えよう」、国語科「すがたを変える大豆」、４年生の総合的な学習の時間「わたし達を取り巻く環境」へとつながっていくものである。

導入ではまず、私たちがどれくらい大豆を食べているかを給食の献立表から調べる。そしてほぼ毎日のように大豆製品を口にしていることが分かり、大豆に対する興味を広げる。そこから、「大豆はどのようにできるのか」「大豆製品にはどんなものがあるのか」「大豆からどのようにして豆腐や納豆になるのか」など、大豆についての疑問を出し合い、それらの疑問を解決していこうと詳しく調べていくことにする。

また、自分たちで大豆を植えて、大豆の生長を観察していく。大豆製品に注目し、醤油や豆腐、味噌などの作り方などを調べることにする。体験や調べ学習などを通して大豆について深く知り、大豆が身近な存在であることに気づかせたい。

さらには、「地域のよさを見つけようⅡ」～ディスカバリー大豆～」では、作り手の思いや苦労も知らせ、昔ながらの製法を取り入れた先人の考えに寄り添いながら，先人の知恵と技術のすばらしさを感じさせたい。そして、大豆食品を食べる大切さ、地域でも大豆食品が作れていることに気付かせ、発信する場を設けたいと考えている。

（２）持続可能な社会づくりとの関連

現在、日本では、グローバル化が進み、さまざまな国の食品が社会に流通している。原料をそのまま食すより、加工して食している場合の方が多くなっている。本単元では、大豆のさまざまな食品に変化していることについて気づかせたい。これは、「持続発展可能な社会づくりの構成概念」のうち、「Ｉ多様性」にあたる。また、大豆が体に良いこと、先人の知恵で変化されてきたことだということに気づき、家族や地域の人から取材することで、さまざまな食品の変化する大豆が万能な役割を保っていることに気付かせたい。これは、「Ｖ連携性」にあたると考えている。

（３）本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

・・給食の献立表などの身近な物から、問題を見出すことによって、既習事項や生活経験と関連づけながら考えることができる力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

・・自分のテーマに沿って、情報を収集して、伝え合い、どのように発信するか話し合う態度

＜さまざまな人や社会、自然などのつながりを尊重する態度＞
・・大豆の調べ学習を通して、先人の知恵から大豆がさまざまな食品に変わることを知り、さまざまな地域で作られていることに興味を持ち、大豆のことを大切にしようする態度

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。
① 同じテーマごとに調べ学習を行い、どのように情報収集を行えばよいかわかりやすくする。
② 調べたことを伝え合う場を定期的に設け、整理して発表できるようにする。
③ 給食という身近な食事から問題を見出し、地域でも大豆を加工して作っていることを知ることで、生活における大豆の重要性に気づくことができるようにする。

4　単元の目標

大豆の栽培や調べ学習などを通して、大豆がさまざまな食品に変わることや大豆製品がさまざまな地域で作られていることに気づく。

5　指導計画と評価規準（総時数　１９時間）

段階	主な学習活動（時数）	多様な観点と見通し（学習方法）	交流と協力（他者や社会）	つながり（他者や社会）	主体的・計画的（自分自身）
課題の設定	大豆が多く使われていることを知ろう。（３） ・献立表を見て、大豆が多く使われていることを知る。 ・大豆の知っていることについて話し合う。 ・大豆について調べたいことを決める。	大豆について、自分の経験と関連づけたり今までの学習と関連付けたりして、自ら課題を見つけている。	大豆について、自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりして、積極的にコミュニケーションを行っている。	大豆がさまざまな食品に含まれていることに気づくことができる。	
情報の収集	大豆について調べよう。（８） ・調べ方について知る。 ・大豆を育てる。 ・大豆の観察を通して、大豆の疑問に思うことを探す。 ・家族・地域の人に取材し、情報を収集する。 ・大豆についてゲストティーチャーに話を聞く。＜本時＞	大豆について、情報を収集するための方法を考えている。	大豆について他者と協力して、情報を収集している。		大豆について、主体的に情報を収集している。
整理・分析	調べたことをまとめよう。（６） ・調べたことを分かりやすい表現方法でまとめる。 ・発表に向けて準備・練習をする。 ・発表の工夫を考える。 ・中間発表を行い、修正する。	大豆について収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして整理・分析している。	自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしながら、友だちと協力して収集した情報を整理・分類している。		まとめや発信につながるように考えて、収集した情報を整理・分析している。
まとめ・表現	調べて分かったことを発表しよう。（２） ・発見発表会をする。 ・活動の振り返りを行う。	誰に何を伝えたいのかを意識して、まとめや発信の方法を考えている。	友だちと協力したり、友だちの意見を聞きながら、よりよいまとめ方や発信の仕方を考えている。	大豆についての発表を通して、大豆の大切さを理解することができる。	

6　ねらい＜第１１時＞

自分のテーマについて、情報を収集することができる。

7　指導過程

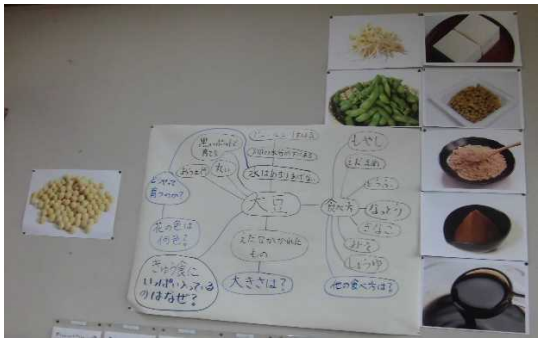
段階	学習内容・活動	時間	○指導上の留意点　＊ＥＳＤの視点に立った留意点・評価＜ＥＳＤで重視する能力・態度＞
導入	1　前時の確認と本時のめあてをつかむ。 自分のテーマについて詳しく調べ、発表に向けての大豆の情報を集めよう。	5	○誰に向けて、大豆の発表会をするのかを再確認させる。
展開	2　テーマごとのグループに分かれ、調べ学習を行う。 ・タブレット端末を使って調べ学習を行う。 ・本を使って調べる。 ・今まで調べたことで分からなかったこと・さらに知りたいことをＧＴに取材し、わかったことをメモする。	２５	○ＧＴは全グループを回り、助言または質問に答える。 ○Ｔ１、Ｔ２は各グループを回り、助言を行う。 ＊タブレット端末・本などの資料、ＧＴへの質問から、テーマに沿った情報を収集させる。**＜主体的・計画的＞＜多様な観点と見通し＞** ＊個人・グループで、ＧＴに質問したいことを考えさせる。　**＜交流・協力＞**
	3　各グループで今日分かったことを発表する。 ・わかったことを整理し、発表する。	１０	○全グループ発表させる。 ○Ｔ１は、児童から出された情報を板書する。 ＊本時分かったことを整理し、発表させる。**＜交流・協力＞**
終末	4　学習を振り返る。 ・本時の反省を振り返りシートに記入し、感想を伝えあう。 ・次時の学習内容を知る。	5	○振り返りシートに簡単に自己評価させる。 ・今日分かったこと、今後どうしていきたいかなど、自分なりの思いを持つことができたか。 （発表・ワークシート）＜主体的・計画的＞ ○　数名に考えたことを発表させ、個の気づきを全体で共有できるようにする。

（３）授業研究の様子（ＥＳＤの視点に立った能力や態度を育成するための手立てに沿って）

＜　導入段階「前時までの学習の確認と、めあてをつかむ」＞

①　今まで調べてきた内容から、ゲストティーチャーに聞きたいことを明確にし、発表会に向けて、大豆の情報を集める。　＜多様な観点と見通し＞

誰に向けて発表会を開くのかを明確にすることで、調べる内容を吟味させる。





○　児童が調べている内容をどこでどのように発表していくかというビジョンがはっきりしていたため、意欲的に取り組むことができていた。

○　ゲストティーチャーを呼び、質問したいことを明確にすることによって、児童の中での取捨選択ができた。

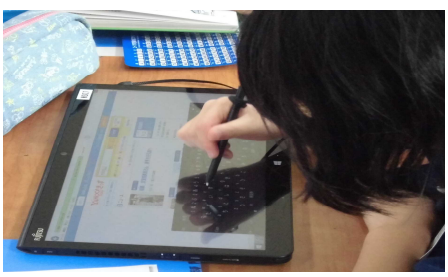
＜　展開段階「テーマごとのグループに分かれ、調べ学習を行う。」＞

タブレット端末・本などの資料、ゲストティーチャーへの質問から、テーマに沿った情報を収集させる。　＜主体的・計画的＞＜多様な観点と見通し＞

○　何度か調べ学習を行っていたことで、児童１人１人の役割が明確になっていて、自分がどの物を使って調べたらいいかはっきりしていた。

●　タブレット端末を使用することで、調べる視野が広くなりすぎたため、自分たちがテーマとしていた物よりも広い情報を手に入れることで、情報の集約が難しくなった。





個人・グループで、ＧＴに質問したいことを考えさせる。

＜交流・協力＞

前時の段階で各グループ、ゲストティーチャーに質問したいことを吟味した。タブレット端末、本等を準備し、各グループが選択して学習できるようにした。





○　グループで自主的に調べ学習を行うことができたため、その後の話し合いや活動の意欲が持続された。

○　資料で調べる人、タブレット端末で調べる人など役割分担をしながら学習を進めることができた。

●　タブレット端末での情報の検索や資料の読み取りに時間がかかり、課題解決まで至らないグループがあった。

本時分かったことを整理し、発表させる。

＜交流・協力＞

自分たちの計画との相違点から、交通の役割や地域の特色などとの関連について学習する次時への見通しを持たせた。





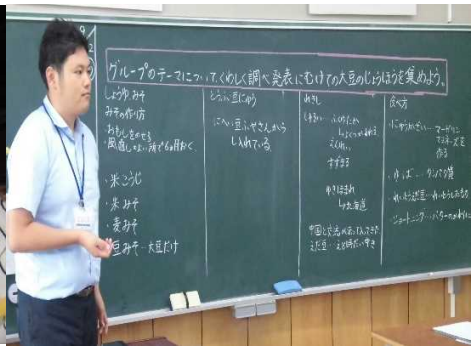
●発表の仕方に工夫が必要である。

●１時間の中に調べて、整理し、まとめるという作業は難しい。うまくまとまらない。

＜　終末段階「各自で今日分かったことをまとめる。」　＞

本時で調べたり、質問したりして分かったことを自分の言葉でまとめる。また、今後どうしていきたいか考えさせる。



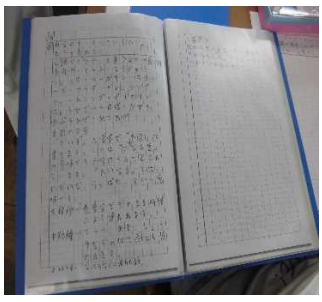




○「枝豆は英語で、ＥＤＡＭＡＭＥというんだ。」「給食の豆腐は須賀川で作られているんだ。」などという記録が見られた。今回知ったことを発表会で知らせていきたいという、次時への意欲を高めることができた。

○今回調べたことを「もっと詳しく調べたい。」「どうなっているのだろう。」と関心を持たせながら調べることができた。

＜次時「調べたことをまとめよう」＞

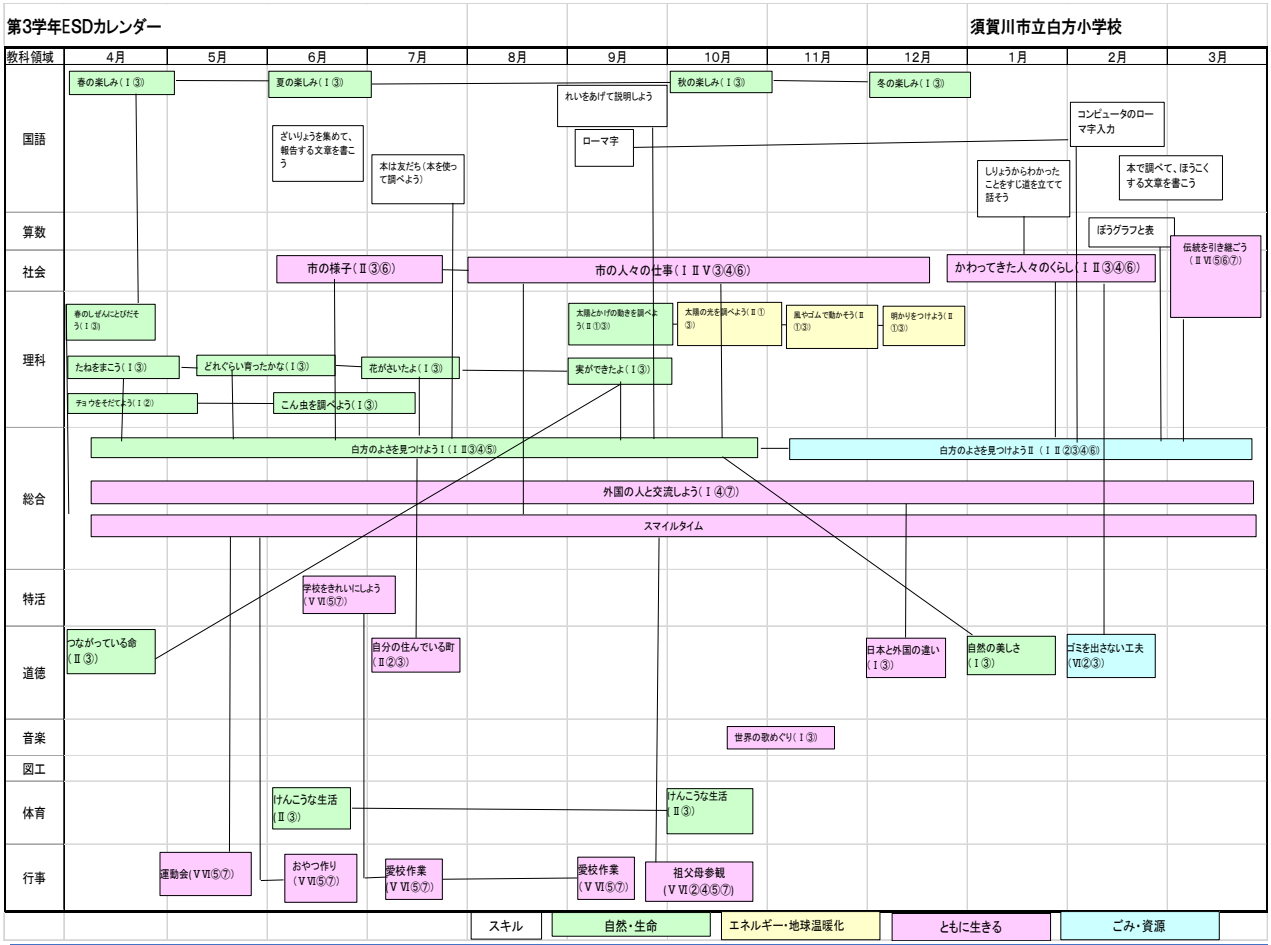




前時・本時での学びをもとに、各グループ発表台本を作り、聞いている人にわかりやすい表現方法でまとめた。各グループの発表を聞き、３色の付箋にそれぞれ、よかった点、改善点、アドバイスする点を書かせ、自分たちのふりかえりを行った。

（４）今年度の実践の成果と課題

①今年度の実践を振り返って



３年生　総合的な学習の時間
「白方のよさを見つけようⅠⅡ」～ディスカバリー大豆～

３年生の総合的な学習の時間は、子どもたちが思い描く白方を中心としたウェビングマップから始まった。児童たちの中から、「畑」「野菜」などをピックアップし、地域と食品の結びつきを考えるため、学校の献立表に注目した。そこで、もやし、みそといった大豆製品が白方小学校の給食にたくさん含まれていることから、今年度は大豆に注目し、学習を行った。



大豆についての調べ学習

「白方のよさを見つけようⅠ」のまとめとして発表する場を２学期の祖父母参観に設定し、「大豆の歴史・大豆の食べ方・味噌醤油について・豆腐豆乳について」の４つのグループに分かれて、調べ学習を行った。調べ方としては、図書室の本、国語の教科書、タブレット端末、ゲストティーチャーへの質問からたくさん知識を得ることができた。家に帰って、家の人にインタビューして自主学習として調べてくる児童も見られた。そして、調べたことをノートにまとめていった。

＜調べ学習の様子＞





発表に向けての準備、そして発表へ

各グループ情報を収集し、発表に向けて準備をしていた児童たちだが、今の発表方法で伝わるのかという疑問に陥った。そこで、６年生の児童たちに協力してもらい、祖父母参観で行う予定の発表の様子を見てもらった。３色の付箋を配り、付箋に良かった点、改善点、アドバイスとさまざまな意見をもらった。

＜６年生との発表交流の様子＞





祖父母参観では、発表の対象を児童から大人までに設定し、幅広い人たちに知って欲しいということから、各グループでクイズを出すなど工夫して発表することができた。

＜祖父母参観の発表の様子＞



「白方のよさを見つけようⅡ」

白方と大豆の関係性について、児童たちは全校生に向けてアンケートをとり、大豆製品が白方地区ではどのくらい作られているのか、どのような大豆製品が作られているのかなど調査を行った。また、給食で大豆製品が多く含まれていることをまとめ、それらをポスターにし、須賀川市に発信する予定である。

②白方小学校のＥＳＤの視点に立った学習指導で育む能力・態度について

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

○毎月献立表に大豆製品がどのくらい入っているかの調査を続けることで、給食時に「大豆入ってる」などという興味を抱いている声が聞こえるようになってきた。

○どのようにまとめたらいいかなど、なかなか見通しが立たない場面や発表に不安を持った場面には、上級生が作成したポスターを貸してもらったり、実際に発表を見てもらったりと他の学年と交流をもつことで、解決できるようになってきた。

●情報を収集するときに、タブレット端末を使用して、収集させた。探したい情報までヒットさせるのに時間を大幅に費やしてしまった。

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

○全教科を通して、ペア学習を中心に、様々なグループ構成で学び合う活動を行ってきた。子どもたちは、自分の考えを持ったら、誰かと一緒になってすぐに話し合いを始め、交流している。そこで、「そこは、なぜそうなったの？」「なるほど」「そうか」など、疑問を持って突っ込んだり、自分たちで気付きを得たりすることができるようになった。

●人数が多くなるほど意見がなかなかまとまらない時があった。その都度、何が大切なのかを確認しながら、交流できるよう助言してきた。今後は自分たちで話し合いがスムーズに行えるように、指導していきたい。

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

○白方小学校の全校生にアンケートを実施したことにより、３７％の家庭で大豆製品を作っていることが分かった。その中でも、味噌を作っている家庭が多くあり、このような文化を大切にしていこうという気持ちが育ってきた。

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度＞

○中学年になり行事等に関しては、どのような立場で臨めばいいのか、どのような態度が下級生にとって見本となるのかを意識させてきた。また、個人的な目標に関しては、目標を達成するためには、どのような行動をすれば達成できるかを常に考えさせた。子どもたちは、目標に向かって一生懸命取り組む姿が見られた。努力していることに関して、頑張った成果を見られるような工夫をしたことで、達成感を持ち、自信につなげられた。

●その時の課題に関しては一生懸命行うことができるが、その場で学んだことを実生活の中で結び付けて活用することができない児童が多い。学習と生活をリンクさせて、結びつけるような力をつけさせたい。